

津駅周辺の将来像

～バスタ構想から、まちの再編を描く～

建設政策課 ☎229-3194 FAX229-3345



名城大学 理工学部
社会基盤デザイン工学科 教授
松本 幸正
YUKIMASA MATSUMOTO

「人と環境にやさしい交通まちづくり」をテーマに交通・都市・まちづくりに関する研究に取り組む。令和2年度から津市地域公共交通活性化協議会会長を務めるなど、津市の地域公共交通に精通する。



国土交通省
中部地方整備局 道路部長
望月 拓郎
TAKURO MOCHIZUKI

津市長
前葉 泰幸
YASUYUKI MAEBA

平成11年旧建設省入省。道路局環境安全・防災課地域道路調整官、国土政策局広域地方政策課調整室長等の要職を歴任後、令和5年7月から現職を務める。



なまこ壁で親しまれた2代目駅舎が象徴的な昭和46年の津駅東口



現在のロータリーが作られつつあった昭和40年ごろの津駅西口

新たな津駅の姿へと動き始めた 駅周辺道路空間の再編事業

市長 津駅周辺は行政、商業、オフィスなどさまざまな都市機能が集積し、また複数の公共交通の路線が乗り入れる交通の結節点でもあります。その歴史をひもときますと、津駅は明治24年に開業。駅の東口・西口では昭和39年～56年に土地区画整理事業が行われ、昭和48年に現在の西口が、同

Introduction

津駅の開業とともに発展を遂げてきた津駅周辺エリア。利用者の増加に伴う駅前広場の混雑や、東西エリアの分断などの課題が増える中、道路法改正を契機に、津駅周辺道路空間の半世紀ぶりの再編に向けて動き始めています。

今回の市長対談では、中部地方整備局望月拓郎道路部長と名城大学松本幸正教授に、バスタプロジェクトの構想や津駅周辺の再開発についてお話を伺いました。

54年に東口のロータリーが完成しました。このような中、特に大きく姿を変えたのは駅の西側で、丘陵地に住宅地や文教施設が建ち並ぶようになりました。もともと東側には商業施設やオフィスがたくさんあり、駅西も同様に発展してきたわけです。

今、この津駅の西口・東口の姿を50年ぶりに変えていくと、国・県・市が話を進めています。この取り組みはちょうど5年前、令和2年の道路法の改正により「バスタプロジェクト」が位置付けられたことを契機にスタートしています。この内容についてお聞かせください。